

摂南大学

農学研究科（農学部）

【専任教員】公募要領

1. 採用予定人数

- 農学研究科 農学専攻 食品栄養科学領域（農学部食品栄養学科） 1名

2. 専攻分野、主たる担当予定授業科目、応募要件、職位

専攻分野	主たる担当予定授業科目	応募要件	職位(人数)
栄養学 または 食品学 (いずれかの分野)	【研究科】 <博士前期課程> 代謝栄養学特論(分担)、食品栄養科学演習Ⅰ、食品栄養科学演習Ⅱ、農学特別研究Ⅰ、農学特別研究Ⅱ、食農科学特論A(分担) 他 <博士後期課程> 食品栄養科学特別演習、特別研究 他 【学部】 <栄養学分野> 応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習 他 <食品学分野> 食品加工学、食品加工学実習 他 <栄養学分野・食品学分野共通> 基礎ゼミナール、食品栄養学研究、管理栄養士総合演習(分担)、卒業研究 他	博士の学位またはそれと同等以上の教育・研究業績を有すること。	教授または准教授 (1名)

※その他、関連科目、学部基礎科目、教養科目、演習（ゼミ）、実験・実習科目等を担当いただくことがあります。

3. 採用予定区分

専任教員

4. 採用予定職位

教授または准教授

5. 勤務地

主として、摂南大学枚方キャンパス（大阪府枚方市長尾峠町45-1）

6. 採用予定時期

2026年 9月 1日以降のできるだけ早い時期

7. 正式採用条件

本公募は、2024年4月に設置した農学研究科教員の欠員補充に伴うものです。そのため、正式採用にあたっては、以下の要件が充足することを条件とします。

○文部科学省の教員資格審査（AC審査）において、「適格」と判定されること。

8. 応募資格

以下の要件を満たすこと。

- (1) 本学の「建学の精神」を尊重できる者（別紙1「摂南大学の『建学の精神』」参照）。
- (2) 博士の学位を有する者（見込みの者を含む）、またはそれと同程度の能力があると認められる者。
- (3) 博士後期課程における研究指導（主指導または副指導）が可能な者。
- (4) 管理栄養士養成課程において栄養学分野または食品学分野関連の授業を担当できる者。
- (5) 栄養学分野の場合は、管理栄養士免許を有する者。
- (6) 情熱を持って、教育（学生指導を含む）、研究、社会貢献活動、大学運営に従事できる者。
- (7) 当該分野における職位に相応の十分な教育研究実績を有する者。

9. 応募方法

(1) 応募フォームの送信

必要事項を入力した本学所定の応募フォームを電子メールに添付のうえ、パソコンから農学部事務室宛に送信してください。

・題 名…「摂南大学農学研究科教員公募応募希望／氏名 ＊＊＊＊＊」

- ・送 信 先…E-mail: SETSUNAN.0(ホ)bu@josho.ac.jp
- ・ファイル名…氏名をご記入ください。
 ※ファイルにはパスワードを設定のうえ送信ください。設定したパスワードは別途、メールにて当課宛にお知らせください。
- ※電子メールは選考日時・場所等の案内にも利用します。携帯電話からの送信は連絡が届かない可能性があるためお控えください。

(2) 応募書類の郵送

下記の応募書類を簡易書留にて送付してください。

- ①送付状 (本学所定の用紙)
- ②履歴書 (本学所定の用紙)
- ③教育研究業績書 (本学所定の用紙)
- ④これまでの教育、研究および職務の概要 (A4用紙2枚以内)
- ⑤教育改善のための実践と抱負 (A4用紙1枚程度)
 - ・教育の改善のため過去に実践した事項や、学生の理解度、習熟度を高めることを目的として今後実践したいと考えていることを具体的に記述してください。
 - ・大学での教育経験がない場合、職場での管理的立場としての指導・改善について記述してください。
- ⑥今後の研究計画 (A4用紙1枚程度)
 - ・今後の研究計画について、具体的に記述してください。
- ⑦競争的資金の取得状況 (A4用紙)
 - ・競争的資金名、課題名、研究費の総額、研究年度、代表・分担の別、代表者名を記載してください。
- ⑧主要な業績 2点 (原本、別刷またはコピー可)
 - ・原則として、直近5年以内の業績を含めてください。
- ⑨応募者本人について意見を聞ける方2名の連絡先等 (任意様式)
 - ・氏名、勤務先、職名、電話番号、メールアドレス等連絡が取れる方法を記載してください。

※応募書類のうち、①②③については、必ず本学所定の用紙で作成してください。

(所定用紙以外での応募は、受付できませんのでご注意ください)

※所定用紙は、**摂南大学教員公募情報**

(URL : <https://www.setsunan.ac.jp/general/public-recruitment/>)

からダウンロード可能です。

※応募書類のホチキス止めはご遠慮願います。

※提出書類に掲載された個人情報、採用選考以外の目的に利用することはありません。

(ただし、採用者については、採用後の雇用管理のために利用します)

※提出書類は、原則として返却いたしません。採用業務終了後、当課で責任を持ってシュ

レッターにより処分します。返却を希望される場合は、本学所定の送付状「伝達事項」欄に「返却希望」と記入のうえ、住所・氏名・電話番号を記入した宅配便の着払用伝票を同封してください。

10. 応募期限

2026年4月24日（金）【応募書類必着】

11. 応募書類提出先

〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 摂南大学 農学部事務室 宛

※ 封筒表面に「教員応募書類（農学研究科）在中」と朱書きし、「簡易書留」にて郵送してください。

※ 応募書類のご持参はご遠慮ください。

12. 選考等

- (1) 第2次選考（面接・模擬授業等）は、2026年5月初旬から中旬に実施する予定です。
- (2) 選考の過程で、追加資料や健康診断書等の提出を求められることがあります。
- (3) 選考の結果については、決定次第通知します。

13. 問い合わせ先

摂南大学 農学部事務室 担当：吉田

〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1

TEL. 072-896-6000（平日9:00～17:00） FAX. 072-896-6003

E-mail. SETSUNAN.0(オ-)-bu@joshu.ac.jp

以上

建学の精神

世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する。

教育の理念

建学の精神に則り、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する。

摂南大学農学部ホームページURL

<https://www.setsunan.ac.jp/agri/> (農学部オリジナルサイト)

「農学研究科」設置の経緯と目的（2024年4月開設）

温暖化などの地球規模の環境変動や世界人口の急速な増大は、将来的な世界の食料需給と健康で安全な生活の維持に深刻な課題を投げかけている。日本は食料の多くを輸入しており、我が国の食料の安定供給は、農業と食に関連した世界の問題と密接に関係している。また、ロボット、AI、IoTといった技術革新、TPP11など経済連携協定の発効に伴うグローバル化の一層の進展、持続可能な開発目標（SDGs）に対する関心の高まりなど、食農産業を巡る国内外の経済社会状況は新たな時代のステージを迎えている。一方、国内ではかつてない少子高齢化・人口減少の波が押し寄せ、特に農業従事者の減少と高齢化が極めて進み、既に地方の一部では産業や集落の衰退が現実のものとなりつつある。近年では、地方ばかりでなく都市部にもその影響が現れており、地方と都市を有機的につなげた新しい食と農の関係の構築が喫緊の課題となっている。

このような中、持続可能な活力ある地域経済社会を構築するためには、時代の変化を見通し、実態に合わなくなった制度やシステムを大胆に変革し、人材や資金を呼び込み、新技術を社会実装することにより、時代の変化に多彩に対応し、新たな成長へとつなげていくことが必要である。食料・農業・農村分野においては、1999年制定の「食料・農業・農村基本法」に基づき、2020年3月閣議決定された「第5次食料・農業・農村基本計画」では、農業や食品産業の成長産業化を促進する産業政策と多面的機能の維持・発揮を促進する地域政策を車の両輪とする施策が示されている。

摂南大学は今般、農業生産学、応用生物科学、食品栄養学、食農ビジネス学で構成する農学部を基礎として、新たに大学院農学研究科（博士課程）を設置し、より深い専門性を養うとともに、食と農を巡る多様なステークホルダーと連携・協働できる実践力を持った高度専門職業人や研究者を養成する。今後、社会人の再教育や教育研究を通じた地域貢献及び国際貢献にも積極的に取り組む。（2023年作成）

摂南大学農学研究科の概要

1. 名称、定員等

研究科名	専攻名	課程	入学定員	収容定員	学位
農学研究科	農学専攻	博士前期課程	20人	40人	修士（農学）
		博士後期課程	3人	9人	博士（農学）

- 2. 修業年限 博士前期課程 2年、博士後期課程 3年
- 3. 設置所在地 枚方キャンパス（大阪府枚方市長尾峠町45番1号）
- 4. 開設時期 2024（令和6）年4月1日 ※修士・博士同時開設

摂南大学農学部の概要

【農学部】

教育研究上の目的	総合科学としての農学を支える広範な基礎科学に関する知識・技能をもって、「農」「食」「栄養」に関する社会的諸課題を自ら発見し、主体的に解決する人間性豊かな専門職業人を養成する。
----------	---

【農業生産学科】

教育研究上の目的	生物や生産環境の科学的真理の解明および生物資源と農業生産技術の開発とその高度利用を追究し、環境への負荷が少なく、生産効率の高い農業生産を実現、および新技術の開発・普及に必要な知識・技術を身につけ社会に貢献できる人材を養成する。
構成する研究室	植物遺伝育種科学、作物科学、園芸科学、植物病理学、応用昆虫学、生産生態基盤学

【応用生物科学科】

教育研究上の目的	生物・生命の諸現象と、その背後にある原理とメカニズムを、分子から個体、集団、生態系を含む視点で深く学び、身につけた広範な知識を基に、人類が直面している食料、生命、環境に関わる諸課題の解決に貢献できる、創造力の豊かな人材を養成する。
構成する研究室	植物分子生理学、ゲノム生物学、植物環境微生物学、応用微生物学、動物機能科学、海洋生物学

【食品栄養学科】

教育研究上の目的	農学の学びを基盤として、食のプロセス（農産物の生産から加工・流通・消費まで）を体系的に理解し、食・栄養・健康・医療・食育の専門的知識・技能・態度を身につけ、地域の健康と心豊かな暮らしの実現に貢献できる人材を養成する。
構成する研究室	公衆衛生学、臨床医学、運動生理学、調理学、食品学、食品加工学、食品衛生学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理

【食農ビジネス学科】

教育研究上の目的	農業や食料、食品産業に関する経済・経営・マーケティングなどの専門知識を身につけ、国内外に存在する食料・農業に関する社会経済的な諸課題の解決に向けて、それらの知識を理論的・実践的に活用して貢献できる人材を養成する。
構成する研究室 または分pp野	農業経営学、食料・農業政策学、農業経済学、地域マネジメント、食料・農業市場、食品産業論、農水産物・食品マーケティング、食品流通、食農共生、環境農学、食農教育、持続型フードシステム